

【優秀賞】

それぞれの個性って？

坂出市立白峰中学校 二年 小林穂花

私は障がい者だからという言葉や、障がい者ならしょうがないという言葉がきらいです。

私の叔母は生まれた時から障がいがあります。もちろん、身体が不自由な分、困ったことがあることも知っているし、大変だということもたくさんあるかもしれません。身体に不自由がない人と比べると、生活も大変で他人から向けられる目も変わります。他人から向けられる目とは悪いことだけではなくもちろん良い目、もあります。心配してくれる、助けようと思ってくれるそんな目もあると思います。ですがそれぞれが相手にとってほんとうに良い目、言葉かけになっているのでしょうか。もちろん、ありがたい気持ちやうれしさを感じる気持ちもあると思いますが、人によっては障がいがあるからと言って、なんでもできないわけじゃないと気を悪くする人もいるかもしれません。

私自身の体験で、叔母に何かしようかといったとき、「大丈夫自分でする。」と、何度か言われたこともあります。その時は手伝うといったのにと少しイライラしてしまいました。ですが、そこから時間、日にちがたつうちに叔母の様々なことを自分でする姿を見てあの時は、なんでもしてあげればいいと思っていた自分の気持ちが変化しました。自分が小さい頃うまくできないけど自分でしたいと母や父、そして家族に言っていた事を思い出し、もしかすると、その気持ちに近いものがあるのではないかと感じました。

では、障がい者とはどのような人のことを皆さんは思い浮かべ、どのように認識していますか？

障がい者とは目が見えないや、足や手が不自由、耳が聞こえないなどの人のことを思い浮かべるのではないでしょうか。もちろんそうかもしれないませんが、私たちにもそのような経験があったのではないかと私は思いました。どういうことだろうと考える人も多いかもしれません、骨折や目が腫れて眼帯を付けている時など、主にけがなどをしたときは、普段よりも、生活がしにくいと感じるのではないのでしょうか。そんなときはみんな同じで自分一人では、なかなか、生活できません。常に身体が不自由な人たちのことを思うと私は、ほんとうに努力を重ねているすごい人なのだと思えるのです。

このように私たちも一時的に大変になったりもしかすると、自分たちも障がい者という立場になったりしてしまうかもしれません。それなのに、身体が不自由な人たちに対して怖い、自分とは違う、といった偏った見方で最悪の場合いじめるなどの行為をしてしまうことがこの世界にはあります。好きなものがある、好きな場所がある、私はこんな性格などは、個性だと思います。結局障がいがある人にとっても、同じことが言えるのではないのでしょうか。

私の好きな言葉に「みんなちがって、みんないい」という言葉があります。その言葉は世界中のどんな人がどんな姿でもどんな考えでも素敵なことという意味があると私は思いました。

障がいということに関わらず、あらゆるところでその考え方は大切です。今、世界中で、ジェンダーレスやLGBTQ、など多様性の時代です。そういった個性を、すべての人が明るくとらえ、尊重しあえているとは今は言えません。そのため自分の個性をみんなに打ち明けるのが怖いという気持ちを伝えられない人たちもたくさんいます。

私はそれぞれの個性をもっと明るく尊重しあえるようなそんな素敵な世界になってほしいと感じています。私たちは普通だと思っている人も多いかもしれませんが、普通とは人それぞれでみんな違い

ます。これが普通あれが普通とそういった概念をなくしていくことがそれぞれが幸せであかるく過ごしていける最大の近道なのではないかと私は思いました。

「それぞれの個性」、このたった七文字がすべての人に大切に、かけがえのないものだと思えます。すべての人が、自分ももしかしたら同じ立場になるかも、その立場ならと、相手を思い考え合うことが、自分も相手も、すべての人が幸せになれるということを忘れずにこれからも、過ごしていきたいです。